Japan Society of Educational Information

「三枝デジタル博物館」の作成
～　郷土三枝を愛する子を育てるために　～

福田　正晴[※1]／森　建次[※2]／荒川　哲郎[※3]／瀬ノ上　裕[※4]

《概　要》
小学校内の様々な教育活動や周辺の風景、さらには校区にある有形・無形文化財、四季の季節を感じる行事、自然や建築物、産業など広範囲な内容について、子ども達が自ら取材活動を行い、画像（主にデジタルカメラ）に収め、「三枝デジタル博物館」として構築する。
このような一連の活動により、時の流れと共に変化していく三枝地区を、現時点でとらえ学校や地域を取り巻く景色や文化として、また子ども達が「ふるさと」として心に強く刻み込む機会とする。さらには、地域のデジタルアーカイブとして DVD に収録し、広く活用を図る中で、後世への貴重な三枝地区の映像遺産として残す。

《キーワード》　郷土愛　デジタルアーカイブ　子どもの手で　地域資料　地域住民

１．はじめに

日本全国どの地域においても、人が住み、その土地にあった生活が営まれている。場所によっては、人が集まり、あるところでは活発な人の動きがある。また、時の流れと共に山川には変化が生じ、生活や環境に少なからず影響を及ぼしている。

現在と十年後の景観が、全く同じということはなく、誰もがそこに大なり小なり違いを発見するであろう。その変化は、当然ながらそこで生活を営む人々にも変化をもたらすことは明らかである。

一方、時の経過があってもそれほどの変容が見られない地域に根付いた文化がある。それらの多くは、古くから地域の人々の手によって脈々と受け継がれてきた。しきたりが重んじられている祭礼をはじめ、様々な伝統的な行事は今もほとんど形を変えず残っている。

高山市三枝地区においては、子ども達が通う学校の教育活動をはじめ、周辺の風景、さらには現時点での校区内の様々な自然の状況、建築物などの人工物、さらには地域で受け継がれてきている文化的な行事がある。それらについてデジタル化を進め、収録したデータを整理し、アーカイブ化することにより、学校は言うに及ばず、大きく地域の貴重な文化財産として後世に残そうと考えるにいたった。

この研究で大切にしたいことは、次の３点である。

①地域を担う子どもづくりのために
記録される対象物を児童が自らの手で視覚的な画像に残す活動を行う中で、自分達の住む空間に「ふるさと」を意識づけ、将来の三枝について一層の関心を持たせるきっかけづくりとする。

②地域の人とともに
地域住民の参加により、対象が多面的かつ総合的であり、内容の充実した普遍的なデジタルアーカイブの源となるようにする。

③校区の記録の蓄積
現存する地域の有形文化財や無形文化財を可能な限り多面的に記録し、後世に残す。

※1 FUKUDA　Masaharu 》　※2 MORI　Kenji　（岐阜県高山市立三枝小学校）
※3 ARAKAWA　Teturou　※4 SENOUE　Hiroshi　（岐阜県高山市立山王小学校）
三枝小学校　℡ 0577-32-0253　e-mail　mieda@edu.city.takayama.gifu.jp

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

２．研究内容と方法について

この研究を推進するため、次のような方法をとる。

(1) 「三枝デジタル博物館」の全体システムを構築する。
(2) 現時点における地域の特色を検討し、児童も記録活動を行う。
(3) 学校の年間教育活動について、記録内容を検討、記録する。
(4) 記録したデータについて、利用面から検索しやすいよう項目（大・中・小）を設定する。
(5) 多面的・総合的な面から児童が記録したデータについて検討し、各項目ごとに選択・分類作業を行う。
(6) 関係者以外の地域住民や学校職員などから意見・感想を集め、内容・利用等の充実を図るための参考にする。
(7) 必要に応じ検討委員会を開催し、システム構成、選択データ等について加除・修正を行う。
(8) デジタル・アーカイブ「三枝デジタル博物館」を作成、DVD に収め、広く利用できるように整備する。
(9)「三枝デジタル博物館」の利用についてアンケートを実施し、評価を行う。

３．地域住民の参加

取材は、主に地域に住む児童の手による方法で行うが、画像遺産として残すのはどのようなものがよいか、どのような形で記録するとよいのかなど、地域に住んでいるからこそ十分に把握している人でなければ分からない情報が実に多く存在する。対象を広くすればするほど、地域に関する知識が必要となる。また、伝統的な行事についても歴史的な背景を見極めた上で、収録する必要がある。このようなことを考えると、地域を熟知した人の協力が極めて大切となる。

そこで地域住民については、次の方々に依頼した。

校区社教主事　　ホタル保存会会長
ＰＴＡ各役員　　校区連合町内会長
校区社教委員長　校区町内会長

そして、上記の方々に、次の点について指導助言を得ることにした。

・地域の自然や有形・無形文化財、特色など収録対象に関わる内容の検討・吟味
・神社仏閣等の歴史的施設や個人所有物等の選択や許可取得について指導、助言
・記録方法についての指導、助言
・活用方法についての指導、助言

４．デジタルアーカイブの構成について

「三枝デジタル博物館」作成のため、現時点で、収録する対象について検討を重ね、大項目、中項目、内容という分類を考えた。

大項目としては、学校関係、歴史、学校周辺、自然、文化、PTA 活動、学校外活動、その他の８分類。さらに大項目を分類して、中項目を設定。中項目に含まれる内容を考慮しデジタル・アーカイブとしての構成を考えた。（資料参照）

今後、この分類についても地域住民の方々の意見を取り入れて、さらに充実するよう検討していく必要があると考えている。

大項目		中項目
学校	風景 四季の行事	建築物　季節を感じる風景 学校行事　学習
歴史		遺跡　建築物
学校の周辺		農業　酪農　道路　橋 神社　寺院　工場　店舗 公的施設
自然		地形　動物　植物
文化		芸能
PTA 活動		各種活動
学校外活動		土曜教室　少年スポーツ その他
その他		

５．記録の方法について

地域に関する様々な対象の記録は、主に児童が行う。しかし、学校の教育活動や地域の伝統的な行事を記録することは、児童では難しい場合も多い。このような場合は、学校職員に頼らざるを得ない。児童が取材活動をする中で「ふるさと」意識を高揚するという目的からはやや外れるが、この点やむを得ないところであると考えている。したがって、取材者は、多くが児童の手で、一部が学校職員時には地域の人の手でということとなる。

一方、記録方法については、単にデジタル

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

カメラで撮影するだけでなく、資料を取り巻く環境状況や記録状況も合わせて記録することにした。対象物をどの方向から撮影したのか、この点について正確な記録を取っておくことによって、より正確な画像となる。このことは、後日、アーカイブ化された画像を利用する場合、対象を同一方向から眺めることができ、比較することが可能となる。また、付随するデータを併せて記録することによって、一層活用が広がると考えている。

6．予想される成果

(1) 児童にとって
- 収集した画像の作品化による満足感
- 「校区のけしき」として残る達成感
- 「ふるさと意識」の高揚
- 情報選択能力の開発
- 付随した資料（周りの状況や、期日、天候等）の必要性の認識
- 現在の生活を大切にする気持の保持

(2) 教師にとって
- 郷土に関する学習資料の教材化
- 学校の教育活動の理解と資料の活用
- 付随した資料（周りの状況や、期日、天候等）の必要性の認識
- 保存資料の活用による地域理解

(3) 地域住民にとって
- 学校との結びつきの一層の強化
- 多面的な地域の特色の見直し
- 地域の良さを再認識する機会

(4) 情報教育の面から
- 後世への貴重な地域財産の伝達
- デジタル画像の処理への興味、関心
- 「三枝デジタル博物館」の構築内容や作成手法の普及化

7．記録データについて

（1）児童による記録データ

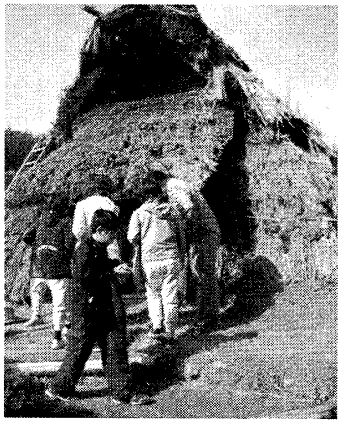
本研究のねらいの一つが児童による取材撮影である。単にカメラを渡すだけではなくカメラの使い方からスタートした。

当初はカメラを落とす、遊び半分、被写体がきちんと撮れていない、など問題があったが、カメラの使用法を次第に理解するようになり効率よく記録を残すことができるようになりつつある。

「風土記の丘学習センター」（児童撮影）

・学習カリキュラムに本研究をどのように位置づけるかが難題である。

今回はたまたま、社会科の学習の一貫として「風土記の丘学習センター」での学習を計画でき、取材できた。総合的な学習の時間も短縮される中で、本研究における児童の関わりについて見直さなければならない。



「住居跡」（児童撮影）

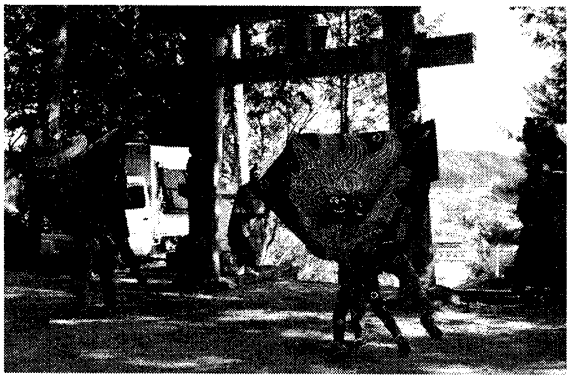
（2）地域の人々による記録データ

校区の古墳群や、野菜栽培、酪農、さらには祭礼等の伝統行事に関わるデータ収集については地域住民の豊富な知識が必要とされる。

「いつ」「なにを」「どのように」などの要素は重要であり、機を逃すと１年待たなければならないこともあり、地域の方々に収録の協力をお願いしている。児童の手では難しいと思われる情報の収集の蓄積が重要であると受け止めている。

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information



上切地区祭礼より　　（PTA役員撮影）

下切地区祭礼より　　（PTA役員撮影）

単に、スナップを撮影するのではなく、文化的な行事としての祭礼を意識して、獅子舞、稚児行列など地区の祭礼を手分けして、撮影していただいた。

８．成果と課題

《成　果》

（１）「デジタル博物館」の記録項目の決定（２１年度・２２年度分）

（２）デジタル画像の収集と記録

・児童、職員、ＰＴＡ役員により、行事、項目について画像の記録ができた。特に学校行事関係はほぼ撮影ができた。

（３）項目内容についての記録様式の作成画像資料はフォルダ化して、一般的に使用されているＯＳ（Windows）のピクチャーフォルダにリンクするように作成し、関連項目のデジタル画像が検索できるようにした。

（４）児童による取材活動

・デジタルカメラによる撮影を意欲的に行った。

・取材内容の焦点化が大切である。学習目的を明確にし、そのために何が必要であるかを理解させる必要がある。これによって、撮影画像が焦点化されてきた。

《課　題》

（１）記録資料については、その様式を今後も検討する必要がある。

（２）どのパソコンでも閲覧できる。今後加除修正が簡単にできる事を考え、一般に普及している Excel・ＯＳのフォルダを利用してみたが、よりよいソフトを検討する必要もある。
専用のソフトを開発することは、現在のところ難しい。

９．おわりに

地域を児童の目線で眺め、その地域に広がる人の営みに基づく文化や特徴を確かめながら、記録として収める活動は、とりもなおさず三枝に住む人々の心に「ふるさと」を焼き付けることになると考える。

作成途中の「三枝デジタル博物館」は、学校での地域学習教材としても、有用と考えられる。地域の自然や産業、建築物などについてそれぞれの特色が収録されるため、児童が地域について学習する際に、活用し易く構成することも大切な要素であるので、今後考慮したいことである。

校区には、現在、飛騨地域では最大級の病院が建設中であり、国道バイパスとしてのトンネル工事や付随する道路工事も行われている。さらには中部縦貫道の延長工事も計画され、自然環境も大いに変化することが予想される。そこで、現時点での工事の様子や風景の変化を記録しておくことは極めて大切なことと考える。

地域の人の知恵を借り、児童が取材を行うという地域に根ざした活動の中で、デジタルアーカイブ「三枝デジタル博物館」作成の試行が価値あるものとなるよう、今後さらに検討を重ねたい。

NII-Electronic Library Service